

富士通コンサートシリーズ

深みある響きとみなぎる鮮烈な音楽表現能力、
若き才能との注目の響演!

©Martin Sigmund

©Don Krause

アンドレス・オロスコ=エストラーダ <音楽監督・指揮>

フランクフルト 放送交響楽団

hr-Sinfonieorchester

Andrés Orozco-Estrada, Music Director, Conductor

PROGRAM

ワーグナー：
歌劇「リエンツィ」序曲
Wagner: Rienzi Overture

ラフマニノフ：
ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 Op.18
Rachmaninov: Piano Concerto No.2 in C minor, Op.18
チョ・ソンジン (ピアノ) Seong-Jin Cho, Piano

ドヴォルザーク：
交響曲 第9番 ホ短調 Op.95 「新世界より」
Dvořák: Symphony No.9 in E minor, Op.95 "From the New World"

チョ・ソンジン
Seong-Jin Cho
©Hansel/Hoffmann/DG

若き巨匠で聴く
ラフマニノフ大作第2番

2018.6.13 (水)

19:00開演 18:00開場

フェスティバルホール

7:00pm, Wednesday 13 June, 2018 at Festival Hall
※未成年者入場不可

チケット発売 1/20(土)

[チケット料金(全席指定・消費税込み)] S¥15,000 A¥12,000 B¥10,000 C¥8,000 D¥6,000 BOX席¥18,000
バルコニーBOX席(2席セット) ¥30,000 (フェスティバルホール チケットセンター電話予約のみ)

[チケット販売窓口]

- フェスティバルホール チケットセンター 06-6231-2221 (10時~18時) <http://www.festivalhall.jp> (窓口での販売は1/21~ただし残席がある場合のみ)
- チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード:348-793) <http://t.pia.jp/>
- ローソンチケット 0570-000-407(オペレーター予約 10時~20時) 0570-084-005(Lコード:54172) <http://l-tike.com>
- CN プレイガイド 0540-08-9990 <http://cnen.jp/>
- イープラス <http://eplus.jp/>

(お問合せ) フェスティバルホール 06-6231-2221 (10:00~18:00)

主催: 関西テレビ放送/フェスティバルホール

歴史と伝統を誇るフランクフルト放送交響楽団が、 アンドレス・オロスコ=エストラーダとのコンビで新たな時代を築く。 チョ・ソンジンとの熱き音の対話に心が高揚する

フランクフルト放送交響楽団は1929年創立の歴史と伝統を誇るオーケストラ。弦楽器は豊かにうたう上質な音色を特徴とし、管楽器はダイナミックで輝かしい響きを備えている。長年に渡りその特質を保持し、インバル、キタエンコ、ウルフ、ヤルヴィら歴代の指揮者のもとで時代にあった演奏を展開してきた実績は、欧米で高い評価を得ている。とりわけマラーとブルックナーの交響曲を得意とし、録音でも名演を残してきた。

2014年、コロンビア出身のアンドレス・オロスコ=エストラーダはウィーンで学んだ、いまもっとも勢いのある指揮者のひとりと呼ばれている。

情熱的でオーケストラを自在に鳴らす術は爽快さに富み、カリスマ性があり、聴衆を湧かせることができる指揮者である。フランクフルト放送交響楽団とは、常に聴き手の心を高揚させる演奏を生み出している。彼はドヴォルザークを得意とし、今回はそのドヴォルザークで真価を発揮する。

ソリストのチョ・ソンジンはショパン・コンクールの覇者。正統的で純粹で心に深く響くピアノは、聴き手の心に深く浸透してくる。ラフマニノフでは鍛え抜かれた美しい音色と、ロシアの大地を思わせるような表現で、新たな作品の魅力を示してくれるに違いない。

伊熊よし子 (音楽ジャーナリスト)

アンドレス・オロスコ=エストラーダ (音楽監督・指揮)

Andrés Orozco-Estrada, Music Director, Conductor

2014/15シーズンよりフランクフルト放送交響楽団 (hr-Sinfonieorchester) の音楽監督を務めており、その間に契約は2021年まで延長されている。1977年にコロンビアで生まれ、ウィーンで学んだアンドレス・オロスコ=エストラーダは、同世代の指揮者のなかで今日最も人気のある一人である。ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ドレスデン・シュターツカペレ、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、シカゴ交響楽団を含む世界の一流オーケストラと定期的に共演している。コロンビアのメジン生まれのオロスコ=エストラーダは、音楽はヴァイオリンからは始め、15歳のとき指揮の勉強を始める。1997年、ウィーンへ渡り、権威あるウィーン国立音楽大学で、伝説的指揮者ハンス・スワロフスキーの弟子であるウロシュ・ラヨビッチに指揮を学んだ。

チョ・ソンジン (ピアノ)

Seong-Jin Cho, Piano

2015年10月に行われたワルシャワのショパン国立ピアノ・コンクールで優勝し、国際的な脚光を浴びる。その圧倒的な才能と自然な音楽性で、チョ・ソンジンはたちまち世界的な活躍を開始し、同世代の中で最も際立つアーティストのひとりとならされている。2017/18シーズン及び2018/19シーズンの主なコンサート活動には、ロンドン交響楽団と首席客員指揮者ジャンドレリア・ノセダ、ハンブルクのNDRエルブフィルハーモニー管弦楽団とクシシュトフ・ウルバンスキ、聖チェチーリア管弦楽団とアントニオ・パッパノ共演のツアー、ケルン放送交響楽団をマレク・ヤノフスキ、フィラデルフィア管弦楽団とヤニック・ネゼ=セガンとの共演が含まれる。また、リサイタルでもヴェルビエ音楽祭、ミュンヘンのプリンツレーゲンテン劇場、シュツットガルトのリダーハレ、キッシンガー・サマー・フェスティバル、ハイデルベルクの春音楽祭、ラ・ロック・ダンテロン、バーデン祝祭劇場等、重要な会場で演奏する。

フランクフルト放送交響楽団

hr Sinfonieorchester

ドイツ発の放送交響楽団のひとつとして1929年に創設されたフランクフルト放送交響楽団 (hr-Sinfonieorchester) は、伝統の維持と現代の一流のオーケストラに求められる課題の挑戦という、微妙なバランス調整に成功し、世界の舞台での演奏とリリースしたCDの数々の受賞で世界的に高い名声を博している。フランクフルト放送交響楽団は、管楽器セクションの質の高さ、弦楽器の豊かな音色、そしてこのオーケストラの伝統であるダイナミックな演奏で定評があり、幅広い様式の音楽を人々に届けている。音楽監督であるアンドレス・オロスコ=エストラーダとともに、極上の音楽を演奏するだけでなく、楽しく変化に富んだレパートリーに取り組んでもいる。フランクフルト放送交響楽団は、ロマン派および後期ロマン派の楽曲の新たなスタンダードとなる革新的なCD録音を行って注目され、今では世界一流のマラーおよびブルックナー演奏のオーケストラと評価されている。エリアフ・インバルから始まったこの音楽的伝統は、ドミトリー・キタエンコ、ヒュー・ウルフが音楽監督だった時代を経て、現桂冠指揮者パヴォ・ヤルヴィへと受け継がれてきた。

FUJITSU Human Centric AI

ジンライ
Zinrai

富士通のAI (人工知能)

shaping tomorrow with you

FUJITSU

「Zinrai (ジンライ)」は、人と協調する、人を中心とした富士通のAIです。最先端のAI技術で、社会に新たな価値を創出します。